INFORMATION

LECTURE&EVENT

新しい年の始まりは、新しい出会いを期待させます。應典院での催しで、新しい出会いを探してみませんか。

ボブ・トラスク　ワークショップ

ARAS財団代表のボブ・トラスク氏をお迎えし、自分の中にある輝きと尊さを見つめるワークショップ。彼のユーモアあふれるエンターテイメントの中で、自分を探してみませんか。

○１月14日(水)9:50～18:00
○滋谷日加瑠　TEL06-927-5005
　宮崎みどり　TEL06-692-8787
　やまさきあおい　TEL0795-59-2979
　※應典院にチラシあり

太鼓センター和太鼓教室開講

太鼓センターが月替わりで行っていた一日教室が発展し、毎月の定期講座が始まります。興味のある方はぜひご参加ください。

○第１回目…１月18日(日)10:00～12:00
○太鼓センター　TEL075-392-6975
　※受講料その他詳細については、太鼓センターへ。

ハープ演奏会

まだ詳細は決まっていませんが、ハープの演奏会があります。幻想的なハープの響きは、こころを清らかにしてくれることでしょう。

○１月25日(日)

【新入会員ご紹介】

（1997年12月18日まで）

10月19日以降にご入会いただいた方々です。ありがとうございました。

○一般会員
【大阪府】
友宗　龍子　大阪市北区
吉村　貞夫　大阪市天王寺区
森田　憲明　大阪市生野区
榛木　恵子　大阪市生野区
田中　　優　高石市

○学生会員
【大阪府】
友宗志野生　大阪市北区

以上６名、現在325名

自分感謝祭　開催！！

應典院で12月26日、今年最後のイベントとして「自分感謝祭」(主催／應典院、協力／應典院寺町倶楽部)が 開催されます。今年一年の自分自身を振り返り、供養する場として秋田光彦住職が企画した、應典院だけのオリジナル音楽法要です。慌ただしい中ではありますが、ぜひお運びください。自分感謝祭、音楽法要、と耳慣れない言葉が並んでいるこの行事について、秋田住職にお話をうかがいました。

―― 「自分感謝祭」を企画された意図はどの辺にあるのでしょう

一年が暮れなずむこの時期、誰もが謙虚になって、一年の反省をする。その反省や懺悔したいことを仏さまに伝えて一年をしっかり締めくくる儀式をしたいと思っています。元旦になれば、皆何となく改まった気持ちになって再スタート(再生)するわけですが、一年の終わりの言うなれば「死」の部分はちゃんとなされていない。その「死」の部分をお寺が引き受けていかないといけないんじゃないかという気持ちでもあるんです。クリスマスが本来の意味を離れて、発散の祭りになってしまっているということも少し意識していますね。

―― 具体的に、どのような雰囲気になるのでしょう

仏教で懺悔式(さんげしき)というのがあるんですが、この懺悔式の形態をベースに全編通して音楽を組み入れる、といった形になります。寺町倶楽部の会員の藤田礼子さんに電子オルガンで仏教賛歌を演奏していただきます。メインは一年の反省や懺悔したいことを書き込んだ「９７年のわたしカード」を火鉢にくべること。このカードは誰に見せるものでもありません。仏さまに伝え、自分自身の中に閉じこめる「鎮めの儀式」と感じてもらえたらよいと思います。

でもあまり堅苦しく考えず、雰囲気、空気を感じてください。

―― 再建した應典院にとって初めての年末の行事ですが、来年以降も続けられるのですか

本当に小さな集いになると思いますが、恒例化していきたいです。繰り返していく中で都市の中の小さな祭りとして定着していけばいいなと思います。

【自分感謝祭】
○日　時：１２月２６日（金）
　１回目…午後２時　２回目…午後７時(いずれも同じ内容です)
○会　場：應典院本堂ホール
○参加費：無料
○申込み：お電話でお申込ください（０６－７７１－７６４１）
※２回目終了後、ロビーで交流会、餅つき会があります。参加者は食料品１品（生もの不可）を持参ください。また飲物代として一人500円いただきます。

サリュ VOL.5　應典院寺町倶楽部のニューズレター

発行日　1997年12月22日（偶数月発行）
編集長　金下玲子
編集スタッフ　池野　亮、綾田直子

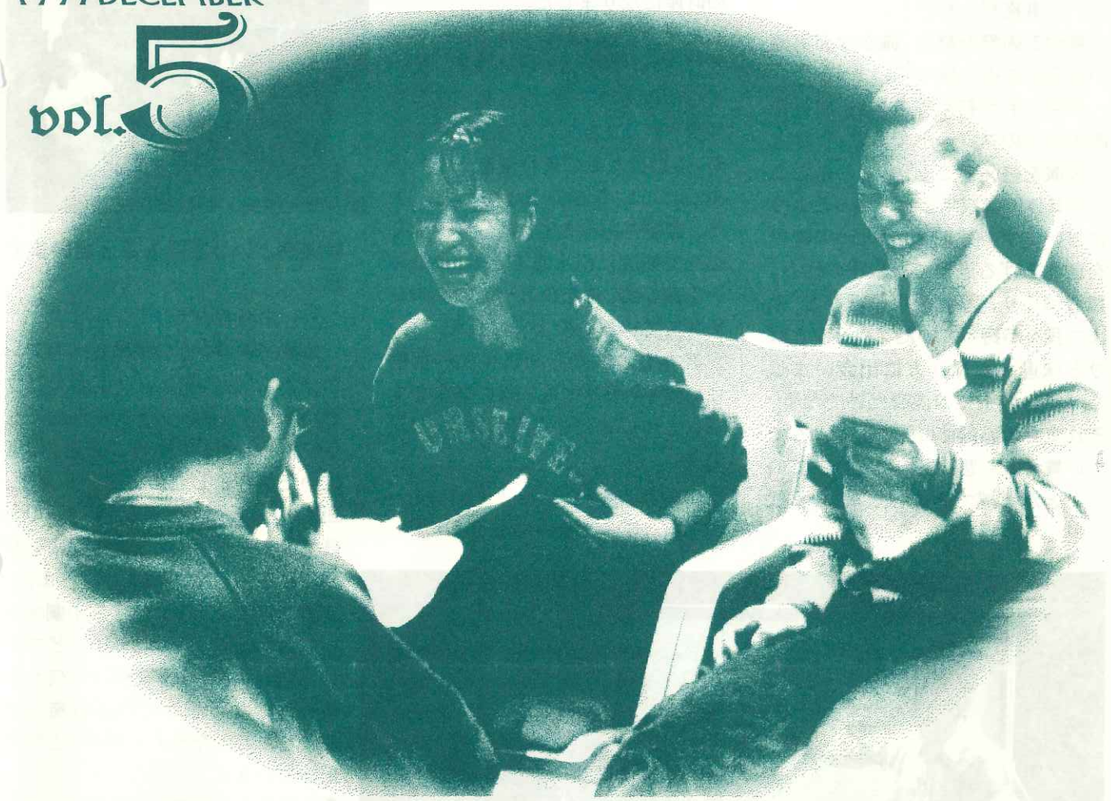
発行所　應典院寺町倶楽部
〒543 大阪市天王寺区下寺町1-1-27
TEL06-771-7641
FAX06-770-3147

應典院寺町倶楽部のニューズレター

Salut

［サリュ］
フランス語で救いの意

1997DECEMBER
vol.5



應典院寺町倶楽部にとっての最初の一年も３分の２が過ぎようとしています。３分の２だけれど、大きな動きと、沢山の出会いの連続でした。
倶楽部の一年のまとめはもう少し先ですが、ちょっとずつ、みなさんの声が集まってきています。「こんなことしたい」「こんなこと考えてます」「わたし、これが得意です」…。みんなの声をつないだり、整理したりするのは今のところ事務局ですが、みなさん自身でそのつながりを膨らませたり、弾ませたりできる寺町倶楽部になればと願っています。
声は、ほんの少し集まり始めたばかりです。私たちはもう少し欲張りになって、もっと多くの声に出会いたいと思っています。

シアトリカル應典院舞台芸術祭
SPACE☒DRAMA '97開催

前号速報でお伝えしましたように１０月３日から１１月３日の１ヶ月間、舞台芸術祭を開催しました。総入場者数は７団体20公演で1018人。出演団体のみなさんとの共同作業や交流を通して、寺町倶楽部事務局も、多くのことを学んだように思います。

舞台芸術祭を振り返って

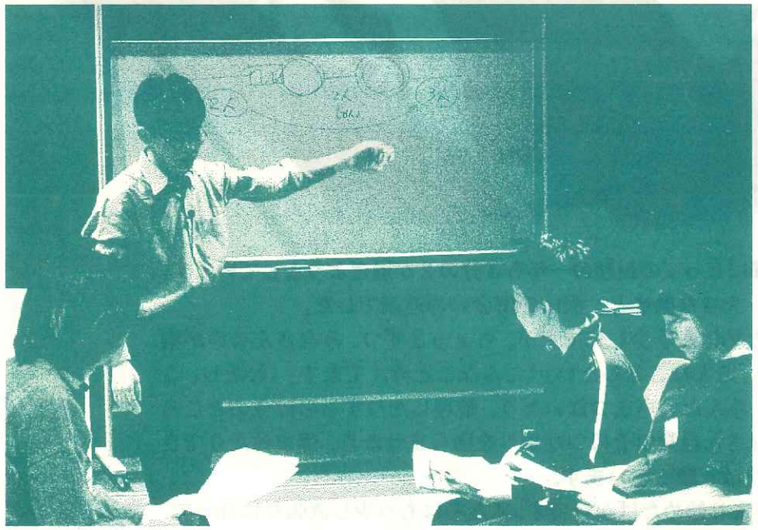
── 事務局より

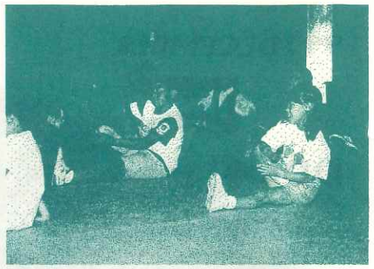
舞台芸術祭を終え、確かな充実感がからだの中に残っています。

何もかもが初めての体験。試行錯誤の中でのスタートでしたが、ひとつ公演を終えるごとに、いろんなことが具体的な成果として残ったように思います。例えば、ひとつの舞台を創りあげる過程で、広報の仕方、舞台づくり、受付、会場整理など、今まで我々が持っていたノウハウとはひと味違ったやり方に出会いました。舞台の上での表現だけでなく、それまでの過程での気の配りようでよい舞台にも悪いものにもなっていくことが実感できました。これらはいろいろな意味で参考になり、今後の財産になりました。

ノウハウとは別に一番大切に感じたことは、舞台にかける情熱。若い人のエネルギーは、ひとつの芝居を仲間で創りあげていく喜びを感じながら、自分たちの進む道を一歩一歩確かめているかのようでした。また、実績のある人は、自分の表現を必死で観客に伝えることで、自分の一を確かめ、またひとつ上の高みをめざしているかのようでした。

我々もこれからの倶楽部の活動に、情熱を傾けて取り組む姿勢を大切にしていきたいと思います。（池野亮）





應典院という空間をどう思いますか

── 来場者のアンケートより

公演団体が行うの来場者へのアンケートに「應典院という空間をどう思いますか」という項目を入れてもらいましたが、沢山のご感想、ご意見いただきましたので紹介します。回答者のほとんどは寺町倶楽部の会員ではありませんし、應典院にも初めて来たという人たちです。また、演劇や舞踏などを上演する小劇場としての評価や感想がほとんどですが、應典院という場を使って何かを始めたいなと思っている事務局にとって参考になるメッセージと受け止めています。

●施設や立地に関して複数いただいたもの
- 天井が高くて気持ちがいい
- 広がりを感じる
- 近代的
- 会場自体の環境はよいが、もう少し現地への案内をよくして欲しい（場所がわかりにくい）
- 不思議な空間
- 設備が整っている
- 外の音が入るのが気になった

など。

●その他印象的な意見
- お寺がこういった施設を造り、文化活動の場として提供するのは、本当に素晴らしいことだと思います
- 心静まる空間。誰が何をしても良いんだよと感じる
- とても魅力的な空間。未知な何かを内包している。「不思議」と「確かなもの、不動なもの」が共存しているような感じがする。
- 日本の文化を大切にしながらいろいろな行事が行われているような雰囲気がよいと思う
- 表向き硬いのに、裏で軟派なことをするのでなく、表向きで硬いのも柔らかいのもごちゃまぜになっているのがよい



EVENT REPORT

第５回寺子屋トーク

10月22日に、第５回寺子屋トーク「芸術文化ＮＰＯ／地域社会再生を考える」を開催しました。講師は演劇評論家で舞台環境フォーラム代表、神戸シアターワークス代表の衛紀生さん。演劇をはじめとする芸術文化活動と行政、地域の新しい関係づくりや芸術文化



ＮＰＯ活動の方向性を、海外の芸術文化ＮＰＯや国内各地での衛さんの活動を例に提言されました。

特に印象的だったのは、芸術文化ＮＰＯはその活動の芸術的評価よりも社会的評価に重きをおいているという点。社会的評価とは、創造的な人間関係や共感し合うネットワークをつくるための一つの道具として演劇などの活動をとらえ、その活動が成立するまでのプロセスを重視する、ということでした。また、演劇好きをつくるのではなく、演劇に関わる中で出会う人間関係によって生涯価値をどう高めるかが社会的成果につながる、ということも話されました。さらに、参加の仕方にはさまざまな形があり、さまざまな価値観がありながらもなるべくいろんな人が参加できる仕組みづくり、関係づくりをしていくのも芸術文化ＮＰＯの大事な仕事だとも。寺町倶楽部のこれからの活動に重要なキーワードを投げかけられた講演でもありました。

第６回寺子屋トーク

11月８日には第６回寺子屋トークを開催、26人が参加しました。今回のテーマは、「介護のこころを考える」。在宅介護ネットワーク代表の西脇創一さんを講師に、老人介護の現状、在宅介護における家族のあり方など、ご自身の活動経験をふまえてご講演いただきました。

これからの社会の中で、大きな課題となるお話だけに、参加された方々も真剣にお話に耳を傾けておられました。中でも、身体的な介護は簡単、介護される方々のこころの叫びに耳を傾ける精神的な介護が難しい、とのお話には考えさせられるところがありました。それは、介護のだけの問題ではなく、人と人とがつきあう中でも、もっとも大切なのはこころの交流だということを教えられた気がします。

また、質疑応答では、実際に介護ボランティアとして携わる学生の質問がありました。真摯にこの問題に取り組むその姿勢は、わたしたちにも、参加された方々にも、大きな希望と勇気を与えてくれたように思います。



もう一度お願いします。あなたのプロフィールを教えてください！

■アンケート結果の速報

本稿作成時点(12月11日)でのアンケートの返信総数は36通です。けして多くない数字ですが、一通一通から伝わってくるお気持ちから、事務局全員が元気をいただきました。まずお礼を申し上げます。

返信いただいた中には、寺町倶楽部に対する具体的な希望やご意見も多数含まれていましたが、全体の印象をまとめるとすれば、「様々なことを自由に話し合える仲間が集まる会にしてほしい」というご希望が一番の基本に在るように思われます。

また、「活動に参加するだけが会を支える行動ではない。今は時間の関係で活動には参加できないが、自由に仲間が集う会という実感が得られるならば、この会の会員であるというだけで今の自分には意味がある」そんなご意見もいただきました。

いつまでも、みなさんの心の中に、会員であることの意味を保ち続ける会に育てていきたいと思います。

■再び、アンケートご返信願います

心の中の意味を保つためにも、活動の報告は大切です。それは倶楽部の事業報告だけでなく、みなさんそれぞれの希望や、活動に参加したときの感想など、つまりこの会のプロフィールを紹介していくことが大切だと思います。その意味では、アンケートの返信総数が少ないというのは残念でなりません。

あなたが希望されている、様々なことを自由に語り合える仲間の一人として、あなたご自身のプロフィールを教えてください。お名前は雅号でも結構です。連絡先も事務局気付で結構です。それでもあなたが居られるということが、みんなに元気を与えることに繋がるのですから。



11月9日～11月14日、11月25日～12月2日に應典院の展示スペースを使って、「ひやしんす会」のみなさんによる写真創作展が開催されました。このグループの浅川心さんに、この写真展を終えて感じたことを寄稿いただきました。

私たち大阪芸術大学写真学科3回生8人(三谷良子・槇沢孝子・工藤三恵・浅川心・田中さえ・平畠美都・中松晶子・杉本暢代)による「ひやしんす会写真創作展」を11月9日～11月14日・11月25日～12月2日の2期間、應典院に於いて開催させていただきました。

コンセプトとしては、各々が普段創作している方向の作品を出展し、個々の個性を出し合うという、グループ展にはあまりない企画内容であったと思います。

「ひやしんす会」が應典院で写真創作展を開くことになったきっかけは、今年5月の應典院のこけら落としイベントとして、写真家の橋口譲二氏の写真展が行われた時でした。広報と期間中の受付等のお手伝いをした折りに、橋口さんと住職の秋田さんから「應典院で写真展をしたらどうですか」という御厚意をいただいたのです。

私たちはここで、「みんなで写真展ができたらいいね」という軽い気持ちでいましたが、「いつでも作品を持ってきてください」と、秋田さんがおっしゃってくださり、私たちの中でもグループ展の具体性が増してきました。結局は、9月頃にしてはどうかというお話を、私たちの都合で11月に繰り下げていただき、本格的な企画をうって、ものごとを進めだしたのが10月になろうかという頃でした。

グループ内でのトラブルは特にありませんでした。準備の段取りや、應典院のスタッフの方との期間の交渉、なにより自らの作品制作に集中するのに精一杯で、なにかと充実した準備制作を過ごしたような気がします。写真学科というある種特殊な環境の中では、みんなで作業の場を持ったり、互いの作品について話し合ったり、プレゼンテーションしたりという状況は珍しくありませんが、個人ではなく共同でひとつのことを成し遂げるという試みはあまりないことです。普通は展覧会の企画をすすめるうえで、8人もいれば意見の相違や気持ちのすれ違いがあるものでしょうが、そのような行き違いはほとんどなく、それでいて本音をいい合える、いいコンディションで写真創作展を開催することができたと思います。

コンセプトがコンセプトなだけに、内容的なことで作品同士がケンカになるのではないかという危惧もありましたが、[心象・風景・花・詩・玄関・子供・少年野球・インスタレーション]の8つのバラバラさがかえっておもしろくみられたのではないかと自負しています。

来てくださった方々のほとんどは、知り合いであったり、親類であったり、学校関係者の方といったつながりのある人たちばかりでしたが、あらためて会場でお会いして、作品に関することから、全く関係のないことまで楽しくお話ししていると、新たな発見をすることもありました。みなさん落ち着いたひとときを過ごしたとおっしゃってくださり、うれしく思います。

私たち全員に、発見あり、意義ありのいい経験ができたと思います。

秋田住職発 應典院掲示板

■授戒会47名の善男善女が成満

去る11月22日から3日間にわたって、應典院で初の授戒会が開催され、47名の参加者が無事満行されました。

授戒会とは、簡単に言うと「一般の方のための仏教入門道場」で、参加者には仏さまの弟子となった証に戒名が授けられるというもの(戒名は死んでからもらうものではありません。生前に修行を勤めて、授かるのが正しい)。修行の3日間、聞法(徳のあるお坊さんから仏教のお話を聴聞する)や念仏礼拝(念仏を唱えながら五体投地を行う)など、参加者にとっては、何事も初めての体験でたいへんだったろうと思います。

でも、同信同行、修行に励む仲間どうし、あたたかな人間関係も生まれて、文字通り助けあい、支えあいのなごやかな授戒会となりました。参加者のうち寺町倶楽部の会員は16名。本当にご苦労さまでした。

また、22・23両日は、トークサロンのスペシャルとして〈夜のつどい〉も開催され、日本キリスト教海外医療協力会の榛木恵子さん、心理カウンセラーの中谷加代さんらをゲストに招き、宗教とこころの問題について存分に語り合いました。



■大阪NPOアワード'97 開催

大阪NPOセンター創設1周年記念イベントとして、〈大阪NPOアワード'97〉が、去る11月24日、應典院を会場に開催されました。これは、急速に広がりつつある多様な市民活動を支援するために企画された、市民活動報告発表会。56の団体が応募、予備審査で選ばれた9団体がそれぞれ舞台上で晴れの活動報告を行い、「おんなの目で大阪の街を創る会」が見事最優秀賞を受賞しました。

国立総合大学院の出口正之教授ら審査員に加え、ナント特別ゲストに宝塚の真織由季さんが来場、ミニステージもありました。

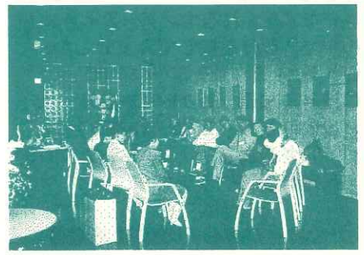
本事業には應典院が協力するとともに、私も予備審査員として参加しました。

■1年間のトークサロン、お疲れさま

去る12月10日、今年最後のトークサロンを開催、14名が参加しました。

11月から、サロンは参加者からの自由発題制で進められており、今回も「手紙」「ホームレス」「温暖化」「男と女」という4つの話題について、参加者同士、自由に気軽に話し合っていました。

5月7日の第1回以来、8ヵ月間にわたって通算13回のべ90名の参加者を得て、無事1年を終えることができました。毎回必ず新人さんの参加もあり、お馴染みさん同士、友だちの輪も広がっています。



あなたもぜひ、一度トークサロンをのぞいてみませんか。

■秋の霊場巡りに総勢50名の大巡拝団

去る10月19日、絶好の行楽日和に、大蓮寺と應典院共催の「法然上人25霊場参詣バスツアー」が開催されました。参加50名。

大型バスで秋の大和路を走り、東大寺指図堂、当麻寺奥之院、法然寺と巡拝、奥之院ではおいしい精進料理に舌鼓を打ちました。

次回は5月に実施の予定です。

■春の人形芝居フェス、開催決定！

昨年好評だった〈なにわ人形芝居フェスティバル〉が、来年の春彼岸中、3月22・23両日開催されることが決定、一心寺から大蓮寺まで下寺町界隈の寺社を挙げて、にぎやかな人形劇のお祭りを繰り広げます。期間中、應典院は〈寺町ミュージアム〉に変身、寺町の情報センターとしてさまざまな企画を準備中です。詳細次号。

おかげさまで、最近あちこちの講演・シンポジウムに引っぱりだこです。機会があれば、ぜひご来場ください。

- 1月16日(金) 兵庫県民会館
  「宗教とボランティア」 分科会
- 2月22日(日) プラネットステーション
  「プラネット映画祭」 コメンテーター
- 3月19日(木) 應典院
  「学びの再生と生涯学習」 シンポジスト
- 3月29日(日) クレオ大阪東(開館記念)
  「大阪発・街・ゆめ・ロマン」 事例報告